

「捨てる」から「分別」への意識改革



年末の大掃除こそ、紙ごみ減量を！

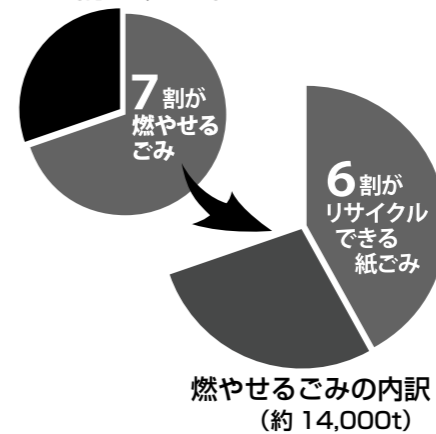
高島市では、今年度から3年間、「めざそうよ！紙ごみ減量日本一」をスローガンに、『高島市ごみ減量大作戦』紙ごみ減量プロジェクトを実施しています。12月は年末の大掃除などで、家庭からのごみが多く出る時期です。大掃除の前に、今一度、ごみのことについて考えてみまじょう。

高島市のごみの状況を知らう

私たちは普段の生活の中で、何気なく多くのごみを出しています。皆さんは、その量が一体どれくらいあり、またどのようにして処理され、処理経費はいくらかかっているかご存知でしょうか。平成21年度、高島市のごみ処理量は約2万トンありました。そのうちの7割にあたる約1万4千トンが市指定の黄色いごみ袋で出された燃やせるごみ（可燃ごみ）です。これらのごみは、すべて今津町途中谷にある「高島市環境センター」へ持ち込まれ、焼却処理されます。その処理にかかった費用は14億5千万

平成21年度 ごみ処理量

総処理量の内訳
(約20,000t)



円で、平成21年度の市税収入(59億円)の約25%にあたります。しかし、その燃やせるごみの中身はというと、約6割がリサイクルできる紙ごみです。ということは、私たちは多くの税金を使って、資源を処分していることになりま

施設の維持管理にも多額の費用

平成14年に稼動した高島市環境センターは、ごみ処理施設の老朽化に加え、異物の混入による機器の破損等により、点検補修にも多額の費用がかかっています。その費用は、平成22年度で約2億円にも上っています。過去には鉄の網などの異物や、長いままのネット・くず糸などがごみ袋に混入されていたために、焼却の前処理で使う破砕機が故障。修繕や取替工事に約5千万円もの費用がかかった上、修繕期間中、近隣の市にごみの処理をお願いするという非常事態に陥りました。



こうしたことから、「ごみ処理経費の削減」、「焼却炉の運転負荷の軽減」そして「CO₂の削減」をめざし、紙ごみの減量とリサイクルを積極的に進める『紙ごみ減量プロジェクト』がスタートしました。このプロジェクトでは、平成25年度末の燃やせるごみの量を、焼却炉の処理能力の8割にあたる1日30トン以下、年間1万1千トン以下にすることを目標に掲げ、今年度は1、125トン、来年度からは1、000トンずつの削減に取り組みます。

燃やせるごみの減量状況

平成21年度と比較した平成23年10月末現在の燃やせるごみの削減量は362トンで、目標に対して約3分の1の達成状況となっています。平成20年度以降横ばい状態

であった燃やせるごみの量が、プロジェクト開始以降、減少傾向に転じ、皆さんのご理解とご協力の成果が、目に見える形となって現われてきています。今年度の目標達成まであと763トンの減量が必要です。皆さんの更なるご協力をよろしくお願いします。

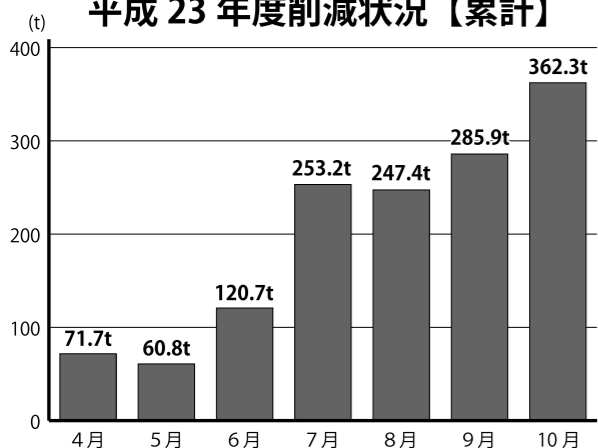


燃やせるごみ袋に入りやすい『紙ごみ』

燃やせるごみの減量は、まず、しっかりと紙ごみを分別することから始まります。

紙類は、「新聞」「ダンボール」「飲用紙パック」「その他古紙(雑誌を含む)」「シユレター紙」と、いろいろな種類に分かれますが、家庭から出るごみ袋には「その他古紙」に該当する紙類が、たくさん含まれています。不要となったチラシ、パンフレット、コピー紙、包装紙、紙袋、紙箱などは雑誌と一緒に分別していただくリサイクルできます。

高島市ごみ減量大作戦 平成23年度削減状況【累計】



地域別世帯ごとのごみ削減量 (月ごと)

月	マキノ	今津	朽木	安曇川	高島	新旭
4月	4kg	▲12kg	4kg	5kg	9kg	▲13kg
5月	5kg	5kg	▲7kg	2kg	6kg	▲11kg
6月	1kg	▲5kg	▲5kg	▲6kg	▲2kg	0
7月	▲6kg	▲10kg	▲4kg	▲6kg	▲1kg	▲4kg
8月	2kg	0	1kg	0	6kg	▲1kg
9月	▲1kg	▲5kg	▲4kg	2kg	5kg	▲4kg
10月	0	▲5kg	0	▲7kg	▲5kg	1kg
計	5kg	▲32kg	▲15kg	▲10kg	18kg	▲32kg

(H23年度可燃ごみ量-H21年度可燃ごみ量) ÷ 各月世帯数
※▲は、平成21年度よりごみの量が減ったことを示しています。